

教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書
(令和6年度分)

令和7年12月

伊那市教育委員会

教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価について

- 伊那市教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価（以下「点検・評価」という。）は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条の規定に基づき実施するものです。

（参 考）

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（関係条文抜粋）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

- 点検・評価は、令和6年度伊那市教育委員会重点施策の達成状況を対象とします。
- 上記重点施策に関連する事務事業は、2～3ページの一覧表のとおりです。
- 自己評価については、概ね次の基準によります。

評価	内 容
A	期待を上回る成果が上がっている
B	期待どおりの成果が上がっている
C	改善する必要がある
D	抜本的な見直しの必要がある

- 「教育委員会評価委員」による委員会を以下の日程にて開催しました。

第1回 令和7年10月31日 午後6時30分 会場：伊那市役所 庁議室

第2回 令和7年11月26日 午後6時30分 会場：伊那市役所 303会議室

- 「教育委員会評価委員」による点検・評価についての意見は、最終ページに記載しています。

令和6年度伊那市教育委員会重点施策に関連する事務事業一覧

No.	重点施策	事務事業名	評 価	備 考 (R6 担当課)
第1節 地域への愛着と誇りを育む教育				
1－1： 学校教育				
1	学校教育の充実 学校・家庭・地域の連携強化	総合的な学習	B	学校教育課
2		キャリア教育の推進	B	学校教育課
3		幼保小中の連携	B	学校教育課
4		読書活動の推進	B	学校教育課
5		学校備品整備・情報教育	B	学校教育課
6	きめ細やかな学びの支援	学力向上	B	学校教育課
7		特別支援教育	B	学校教育課
8		外国籍児童生徒の支援	B	学校教育課
9	安心安全な給食と食育の推進	給食運営・給食施設整備	B	学校教育課
10	学校施設の長寿命化と適正配置	学校施設の改修整備	C	学校教育課
1－2：教育連携				
11	高等学校との連携	高等学校振興	B	学校教育課
12		私立高等学校振興	B	学校教育課
13	大学等との連携	大学・高等学校との学習連携	B	学校教育課
1－3：心の教育				
14	不登校対策の推進	中間教室	A	学校教育課
15		不登校児童生徒支援ネットワーク	B	学校教育課
16	虐待防止対策の推進	子育て教育支援相談、家庭児童相談	B	子ども相談室
17	いじめ防止対策の推進	子どもと親の相談員の配置	B	学校教育課
18		スクールカウンセラーの配置	B	学校教育課
1－4：青少年健全育成・家庭教育				
19	子どもの居場所と安心安全の確保	少年補導委員会・少年補導センター	B	生涯学習課
20		学童クラブ	C	生涯学習課
21	地域・関係機関との連携による	青少年育成対策	B	生涯学習課
22	家庭教育の充実	二十歳のつどい	B	生涯学習課
第2節 生涯にわたる学びの支援				
2－1：生涯学習				
23	生涯学習・社会教育の推進	市民大学・市民大学大学院	B	生涯学習課
24		高遠町桜大学	B	生涯学習課
25		長谷地区生涯学習講演会	B	生涯学習課
26		社会人権同和教育	B	生涯学習課
27		学校人権同和教育	B	学校教育課
28	公民館活動の推進	集会施設建設等補助	B	生涯学習課
29		公民館共同事業	B	生涯学習課
30		公民館事業	B	生涯学習課
31	図書館の充実	蔵書管理	B	生涯学習課
32		図書館イベント	A	生涯学習課
33		図書館分館	B	生涯学習課

2－2：文化・芸術				
3 4	文化芸術の振興と地域文化の育成	進徳館の日	B	生涯学習課
3 5	文化財の保存・継承・活用	史跡高遠城跡	B	生涯学習課
3 6		民俗資料館	B	生涯学習課
3 7		旧井澤家住宅	B	生涯学習課
3 8		民俗文化の伝承	B	生涯学習課
3 9		市誌編さん	B	市誌編さん室
4 0	文化芸術施設の充実及び活用	創造館	B	生涯学習課
4 1		高遠町歴史博物館	B	生涯学習課
4 2		信州高遠美術館	C	生涯学習課

第1節 地域への愛着と誇りを育む教育

児童生徒らが自ら生きる力を育むために、「はじめに子どもありき」の教育理念のもと、郷土の教育資源を生かした食育やキャリア教育をはじめ、体験や対話を重視した人間性に満ちた教育により、心豊かな人づくりに取り組みます。また、豊かな自然や歴史文化に恵まれた郷土の魅力を学び、ふるさとに対する誇りや感謝の気持ちを育むとともに、郷土愛を受け継ぐ次の世代の人材育成に努めます。

1－1： 学校教育

教育理念「はじめに子どもありき」の具現化を図るため、「学校教育の充実、学校・家庭・地域の連携強化」、「きめ細かな学びの支援」、「安心安全な給食と食育の推進」、「学校施設の耐震化・長寿命化と適正配置」により、全ての教育活動を「子どもに発し、子どもに還る」ものとするよう努めます。

(1) 学校教育の充実、学校・家庭・地域の連携強化

事務事業	No.1	総合的な学習		R6 年度決算額	6,783 千円
事業の目的	子どもたちの生きる力、郷土を愛する心を育むため、地域の自然や歴史、文化を学習するなど、子どもの求めや願いを大切にしたい伊那市らしい総合的な学習を推進します。				
事業内容	各学校が主体的に取り組む「体験学習」、「交流学习」、「体力づくり」など創造的な学習の支援				
達成状況	○全小中学校において、地域の特色を活かした総合的な学習を実施しました。 ○創造的活動推進事業交付金、信州型コミュニティ・スクール交付金を、全小中学校に交付しました。				
	区分	学校名	令和5年度主な取り組み		
	小学校	伊那	動物飼育（山羊、ポニー他）、農作物栽培と調理、林での活動など		
		伊那東	稲・花・野菜栽培、動物飼育、学校の歴史調べなど		
		伊那北	稲・野菜栽培、里山利用活動、調理・工作など		
		伊那西	学校林を活用した学習、稲・野菜栽培と調理、バラの栽培など		
		富県	稲・野菜栽培、保育園や高校交流、清掃活動など		
		新山	稲・野菜栽培と調理、動物飼育、地域交流活動など		
		美簗	稲・野菜栽培、調理、障害者との交流、桜並木整備など		
		手良	稲・花・野菜栽培、調理、地域交流、トランペット演奏など		
		東春近	稲・花・野菜栽培、老松場での活動、保育園児との交流など		
		西箕輪	稲・野菜栽培と販売・調理、動物飼育、繭の飼育と工作など		
		西春近北	太鼓学習、稲・野菜・花栽培、陶芸食器作り、学校CM作りなど		
		西春近南	地域間・高齢者・保育園交流、稲・野菜栽培など		
		高遠	孤軍高遠城・高遠囃子・高遠石工等地域学習、高校生との交流など		
		高遠北	花壇活動、野菜栽培、調理、音楽祭出演、そば打ちなど		
		長谷	稲・野菜栽培、孝行猿の劇発表、長谷っ子講座、竹加工体験など		
	中学校	伊那	観光・行政・地域おこし各講座、職場体験、上伊那めぐりなど		
		東部	食育活動、キャリア学習、マナー講座、ふるさと学習など		
		西箕輪	大正琴、花壇整備、浴衣着付け、聴覚障害の学習など		
		春富	キャリア学習、清掃奉仕活動、地域イベントへの出店など		
		高遠	観桜期活動、高遠とうがらし栽培、飲食店マップ作りなど		
		長谷	花壇づくり、唐辛子栽培・ラー油づくり、JICA 交流など		
事業の課題及び方向性	【課題】一人一人の子どもに、困難に直面した時、自分の総力で当たれば何とかできるような知識や技能、活用する力などの総合的な力を育むことが望まれます。 【方向性】自然・文化・伝統などを題材に、学習する、体験する、つくる、交流するなどの活動を通して総合的な学習、創造的な活動に取り組みます。また、コミュニティスクールを軸に、地域に開かれた学校づくりを推進します。				
自己評価	B				

事務事業	No.2	キャリア教育の推進	R6 年度決算額	4,258 千円
事業の目的	子どもたちが社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現する力を育むために、学校、家庭、地域、産業界、行政が協働してキャリア教育の推進に取り組みます。			
事業内容	○伊那市キャリア教育推進委員会の運営 ○職場体験学習の実施 ○伊那市中学生キャリアフェスの実施 ○キャリア教育かみいな交流会ほか郷土愛プロジェクト事業への参画			
達成状況	○市内中学生を対象に学校、事業所と連携を図りながら職場体験学習を実施しました。 <ul style="list-style-type: none"> ・実施生徒数 541 人 実施日数 2～5 日間 ・受入れ事業所数 144 か所 (R3:132 か所、R4:160 か所、R5:146 か所) ○中学生が新たな出会いや発見を体感しながら、地域の良さを改めて実感し、未来を考える機会として、「伊那市中学生キャリアフェス2024」を開催しました。 <ul style="list-style-type: none"> ・参加生徒数 市内全6中学校2年生及び伊那養護学校中学部 541 人 ・出展者数 87 ※伊那養護学校の生徒がオンラインで参加しました。 ○上伊那の産学官組織が協働しながら、次世代育成や地域づくりを実践する郷土愛プロジェクトの事業に参画しました。 <ul style="list-style-type: none"> ・第11回キャリア教育かみいな交流会 in 駒ヶ根市 参加者 494 人 (R3:220 人、R4:234 人、R5:485 人) 			
事業の課題及び方向性	【課題】 職場体験学習の実施に係る手続等の事務の流れは定着していますが、生徒・学校と受入れ事業所との目的、理念の共有を更に図っていく必要があります。 【方向性】 事前・事後学習等を通じて生徒一人一人に目的意識を持たせるための支援を行うとともに、地域で子どもを育てるとする伊那市キャリア教育憲章のビジョンに関係者間で共有する取組を推進します。また、キャリア教育の一貫性、継続性を担保するため、小学校、高校等との更なる連携を図ります。			
自己評価	B			

伊那市中学生キャリアフェス2024



事 務 事 業	No.3	幼保小中の連携	R6 年度決算額	2 千円
事業の目的	<p>保育園・幼稚園と小学校双方が幼児期から学童初期における子どもの発達と活動（遊びと教育）についての理解を深め、育ちや学ぶ意欲がスムーズに引き継がれ、健やかな成長を支援できるよう幼児教育と小学校教育の双方の質の向上を図るとともに、中一ギャップと言われる中学校進学時の不登校の増加など、学校不適應への適切な対応を図ります。</p> <p>子どもが抱える課題などについて早い時期から情報の共有を図り、早期に適切な支援を行い、不適應、不登校等への早期対応、未然防止を図ります。</p>			
事業内容	<p>○幼保小連絡会、小中連絡会の開催 ○学校行事等を通じた児童生徒の交流</p> <p>○保育士、小学校教職員の相互体験 ○幼保小・小中連携推進委員会開催</p> <p>○幼保小連携プログラムの実践</p>			
達成状況	<p>○保育士・小学校教職員の相互一日体験を実施、子どもの実態を体験的に感得することで双方の意識変革を促す取組になっています。</p> <p>○「幼保小連携推進委員会」において作成した伊那市版「幼保小連携プログラム」に基づく、地域の特性を生かしたアプローチ・スタートカリキュラムの作成、実践により、保育園から学校へのスムーズな接続が図られています。</p> <p>○支援を要する子どもを対象に「成長ダイアリー」を作成し、幼・保・小・中・高の情報共有を図っています。</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課 題】小1プロブレム、中1ギャップと言われる進学時の学校不適應への対応が求められています。</p> <p>【方向性】児童生徒、教職員間の相互交流などを通して心的距離の縮小を図ります。</p> <p>伊那市版「幼保小連携プログラム」について、カリキュラムの実践、検証、見直しを進めます。</p>			
自己評価	B			

事 務 事 業	No.4	読書活動の推進	R6 年度決算額	55,295 千円
事業の目的	<p>心豊かな人間性と自ら学ぶ学習意欲を育むため、学校図書館の充実を図るとともに、読書活動を推進します。</p>			
事業内容	<p>○学校司書の配置</p> <p>○読み聞かせボランティアの活用及び充実</p> <p>○学校図書館システム活用</p>			
達成状況	<p>○「朝読書」などの全校一斉読書、地域のボランティア等による読み聞かせを全小中学校で行っています。</p> <p>○全校に配置した学校司書（17 人（うち 2 校勤務 4 人））が、読書活動や図書館活用の支援、読書環境の充実に力を発揮しています。</p> <p>○図書館システムを全小中学校に導入し、活用しています。</p> <p>【参考】図書館の本の 1 人当たり平均貸出冊数</p> <p>小学校 108 冊（R3:115 冊、R4：113 冊、R5：112 冊）</p> <p>中学校 30 冊（R3: 31 冊、R4：28 冊、R5：27 冊）</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課 題】読書習慣の定着、自主的、主体的学習活動の支援、情報の収集、選択、活用能力の育成が求められています。また、図書館システムの更なる有効活用を検討する必要があります。</p> <p>【方向性】引き続き学校図書館の蔵書の充実を図るとともに、図書館を活かし子どもの読書活動や調べ学習を支える学校司書を配置します。</p> <p>読み聞かせボランティアの活用を図り、読書活動を推進します。</p> <p>市立図書館と連携し、図書館システムの有効活用を図ります。</p>			
自己評価	B			

事務事業	No.5	学校備品整備・情報教育	R6 年度決算額	(情報関連) 173,196 千円
事業の目的	情報教育を含む教育環境の充実を図るため、教材備品及び情報機器の整備を推進します。			
事業内容	○一般教材・理科教材備品の整備 ○タブレット端末、校務用パソコン、電子黒板セット等の環境整備 ○「学校教育の情報化ビジョン」実現のための取組及び検証			
達成状況	○必要な教材備品及び情報機器を整備しました。 ○学力向上検討委員会・情報委員会での検討により小中全校での AI ドリルを R4 年度から導入しており、活用推進を行っています。 ○ICT 活用教育専門幹を配置し、さらなる ICT 活用推進へ向けた取組みを行いました。 ○地域おこし協力隊 2 名を配してリテラシー教育の支援と、さまざまな活動の状況を発信しました。 ○5 年以上経過した児童生徒のタブレットを更新し、2,300 台を導入しました。			
事業の課題及び方向性	【課題】 GIGA スクール構想による整備により 1 人 1 台のタブレットが整備され、これまでに以上に児童生徒及び教員のスキルアップやセキュリティ意識の向上が必要となっています。 【方向性】 学校からの要望に基づき、教材備品・理科備品を整備すること、情報教育においては、児童生徒の個別最適な学び・主体的な学び・創造性を育む学び実現のため、支える教員の ICT 研修会や支援体制の充実をはかるとともに、ICT 活用指導力向上を目指します。また、情報セキュリティ意識の向上と正しい利用のため情報リテラシー教育を進めます。			
自己評価	B			

(2) きめ細やかな学びの支援

事務事業	No.6	学力向上	R6 年度決算額	5,310 千円
事業の目的	自ら学ぶ意欲や学習習慣の形成を図るため、①学力検査の結果などを基に授業改善などに努め、児童・生徒一人一人の実態に応じた学習指導を行います。②小学校と中学校の放課後等に行われる自発的な学習活動を支援します。③中学生が長期休業中でも安心して過ごせる学びの場所を確保します。			
事業内容	○総合学力調査の実施 ・小学 3 年生算数 (599 人)、小学 4 年生国語・算数 (609 人)、小学 5 年生国語・算数 (585 人) ・中学 1 年生国語・数学・英語 (575 人)、中学 2 年生国語・数学・英語 (574 人) ○総合学力調査結果の分析と授業改善 ○小学生の学力向上支援 (授業中、業間、放課後) 事業の実施 ○中学生の放課後学習支援事業の実施 ○読み書きにつまずきのある児童の早期発見・支援事業の実施 ○中学校の長期休業中に、学習支援を受けながら自主的に学びを深め、基礎的な学力の定着を図るとともに、長期休業中の規則正しい学習リズムと安心できる居場所を確保する			
達成状況	○総合学力調査結果の分析を基に個別指導、授業改善に取り組みました。 ○教育長、学校教育課長、指導主事、ICT 活用教育コーディネーター、校長・教頭会の代表者で構成する「学力向上検討委員会」を設置。調査結果の分析と、「授業づくり研修会」を開催して学力向上と授業改善を提案し、今後の方向性について研究協議を行いました。 ○中学校の放課後学習支援員を募集、委嘱し、中学生の学力向上を支援しました。 受講生徒数 188 人 (R1:346 人、R2:219 人、R3:223 人、R4:248 人、R5:190 人) 支援員数 27 人 (R1: 60 人、R2: 67 人、R3: 41 人、R4: 59 人、R5: 28 人) ○小学校の放課後等の学習支援員による学力向上支援事業を行いました。 受講児童数 904 人 (R1:1119 人、R2:341 人、R3:1335 人、R4:1054 人、R5:975 人) 支援員数 39 人 (R1: 53 人、R2: 30 人、R3: 53 人、R4: 40 人、R5: 43 人) ○全小学校の 1 年生～3 年生に MIM(多層指導モデル)の導入をしており、読み書きについて			

	<p>の研修を実施しました。</p> <p>○中学校の長期休業中（夏・冬・春）に「中学生の自習室」として市内５カ所の公民館を会場に、学習支援員を配置し、午前中の時間、お昼の軽食付きで実施しました。</p> <p>延べ参加生徒数 600人 （夏）326人、（冬）121人、（春）153人</p>
事業の課題及び方向性	<p>【課題】全国平均に比してやや低い正答率の教科があります。（中学 数学）</p> <p>【方向性】市校長教頭会の学力向上検討委員会において各教科を分析し、改善策を検討し、授業づくり研修会で提案するとともに、学力向上支援ボランティアやＡＩドリルの活用を進めます。</p>
自己評価	B



中学生の自習室（西箕輪公民館）



放課後学力向上支援事業（西箕輪中学校）

事務事業	No.7	特別支援教育	R6 年度決算額	102,864 千円																																		
事業の目的	知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱、弱視、難聴、言語障害、情緒障害等心身に障害のある児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行います。																																					
事業内容	○特別支援教育支援員・講師の配置 ○伊那中央病院院内学級の設置、運営 ○ことばの教室（伊那小学校、高遠小学校※）の設置・運営 ○まなびの教室（伊那北小学校、西箕輪小学校※、西春近北小学校※）の設置・運営 ○学びの教室（東部中学校、春富中学校※）の設置・運営（※サテライト教室） ○特別支援教育就学奨励費の支給																																					
達成状況	○特別な教育的支援を必要とする児童生徒の増加に対応するため、特別支援教育支援員を市費で配置しました。 【参考】特別支援学級在籍児童生徒数・クラス数・支援員数 <table><tr><th rowspan="2"></th><th colspan="2">小学校</th><th colspan="2">中学校</th><th rowspan="2">支援員数 内()講師数</th></tr><tr><th>児童数</th><th>クラス数</th><th>生徒数</th><th>クラス数</th></tr><tr><td>R 3</td><td>248</td><td>46</td><td>132</td><td>23</td><td>46(1)</td></tr><tr><td>R 4</td><td>242</td><td>48</td><td>135</td><td>22</td><td>46(0)</td></tr><tr><td>R 5</td><td>239</td><td>47</td><td>129</td><td>22</td><td>51(0)</td></tr><tr><td>R 6</td><td>264</td><td>48</td><td>123</td><td>22</td><td>52(0)</td></tr></table> <p>特別支援教育就学奨励費の支給 248 人（R3:238 人、R4:220 人、R5:243 人）</p> ○副学籍制度による、特別支援学校に就学する児童生徒と居住する地域の小中学校の児童生徒の交流及び共同学習の拡充に努めました。（副学籍児童生徒 42 名）					小学校		中学校		支援員数 内()講師数	児童数	クラス数	生徒数	クラス数	R 3	248	46	132	23	46(1)	R 4	242	48	135	22	46(0)	R 5	239	47	129	22	51(0)	R 6	264	48	123	22	52(0)
	小学校		中学校			支援員数 内()講師数																																
	児童数	クラス数	生徒数	クラス数																																		
R 3	248	46	132	23	46(1)																																	
R 4	242	48	135	22	46(0)																																	
R 5	239	47	129	22	51(0)																																	
R 6	264	48	123	22	52(0)																																	
事業の課題及び方向性	【課題】特別支援学級に在籍している児童生徒数は概ね横ばいとなっています。自・情障学級では、学年が上がっても在籍児童数が減少しない傾向にあることなどが理由として挙げられます。また、通常学級においても学習障害（LD）、注意欠陥多動性障害（ADHD）、広汎性発達障害等、学習や生活の面で特別な教育的支援を必要とする児童生徒が増加しており、支援体制の充実が求められています。 【方向性】関係機関との連携を図り、子どもの教育的ニーズに最も的確に応える支援を提供するとともに、ノーマライゼーションの観点からも、自・情障学級から通常学級への転籍に向けた支援のあり方を検討する必要があります。																																					

	また、児童生徒、保護者等が障害への理解を深めるとともに、特別支援学校に通う子どもたちが、友だちとの繋がりや地域での存在感を継続できるよう副学籍制度の充実に努めます。	
自己評価	B	

事 務 事 業	No.8	外国籍児童生徒の支援	R6 年度決算額	12,714 千円																				
事業の目的	通訳、相談、学習支援等の支援体制を整備し、外国籍児童生徒の学校生活への適応、学力の定着を図る。																							
事 業 内 容	○日本語教室の設置、運営（伊那東小、伊那北小、東部中） ○外国語児童生徒支援相談員の配置（伊那北小、東部中） ・児童生徒の学習及び学校生活の支援、家庭への便りの作成、家庭との連絡、通訳等 ○発達障害等、特別な教育的支援を必要とする外国籍児童の支援、家庭と学校との連絡、通訳等に当たる支援員の配置（伊那東小）																							
達 成 状 況	<div>外国籍児童生徒に対する、通訳、相談、学習等の支援を継続して行いました。 【参考】外国籍児童生徒数</div> <table><tr><td></td><td>伊那東小学校</td><td>伊那北小学校</td><td>東部中学校</td></tr><tr><td>R 3</td><td>22</td><td>46</td><td>41</td></tr><tr><td>R 4</td><td>22</td><td>38</td><td>37</td></tr><tr><td>R 5</td><td>22</td><td>41</td><td>33</td></tr><tr><td>R 6</td><td>24</td><td>37</td><td>31</td></tr></table> <div>その他 小学校4校17人、中学校3校8人</div>					伊那東小学校	伊那北小学校	東部中学校	R 3	22	46	41	R 4	22	38	37	R 5	22	41	33	R 6	24	37	31
	伊那東小学校	伊那北小学校	東部中学校																					
R 3	22	46	41																					
R 4	22	38	37																					
R 5	22	41	33																					
R 6	24	37	31																					
事業の課題及び方向性	【課 題】障害があり特別な支援を必要とする外国籍児童への対応や多様な言語への対応を求められるケースが増えています。 【方向性】日本語教室の設置、運営と外国語児童生徒支援相談員等の適切な配置を引き続き行います。																							
自己評価	B																							

(3)安心安全な給食と食育の推進

事 務 事 業	No.9	給食運営・給食施設整備	R6 年度決算額	358,864 千円
事業の目的	児童生徒の心身の健全な発達に資するため、安心安全で栄養バランスのとれた給食を提供するとともに、食に関する正しい理解と望ましい食習慣を身につけるため、食育を推進します。			
事業内容	○学校給食運営 ○学校栄養職員、給食技師の配置 ○伊那市学校給食食農体験事業「暮らしのなかの食」への取り組み ○給食施設の整備			
達成状況	○食材の共同購入により経費の縮減を図るとともに、地産地消の安心安全な美味しい給食を提供しました。(令和6年度県内産食材利用率 約 40.3%) 【参考】 ・給食提供数 1,152,322 食 (R3 : 1,188,341 食、R4 : 1,157,983 食、R5 : 1,141,032 食) ・給食技師数 68 人 (R3 : 78 人、R4 : 74、R5 : 69 人) ・給食 1 食あたりの経費 253 円 (R3 : 212 円、R4 : 214、R5 : 213 円) ※給食運営費÷給食提供数にて算出 (292,251,364 円÷1,152,322 食) ○栄養職員を各学校及び調理場に配置し、食育を推進しました。 ○給食施設の整備を行いました。 ・伊那東小学校給食調理場ペレットボイラー設置工事 45,650 千円 ・長谷給食配送車の購入 7,102 千円 ・手良小学校・東部中学校冷蔵庫の購入 1,326 千円 ・手良小学校給食調理場建設工事は、計画を見直し、次年度以降に先送りしました。 ○市内全校で、伊那市学校給食食農体験事業「暮らしのなかの食」へ取り組みました。 ・活動事業費(食育に係る各学校への配当等) 1,177 千円 ○物価高騰の社会情勢において、学校給食の質と量を維持するため、食材費の値上がり分を補助しました。(学校給食会計への補助、補助率11%) 29,462 千円			
事業の課題及び方向性	【課題】 子どもたちに安心安全で美味しい給食を提供するとともに、食育を推進し、食に対する理解を深める必要があります。また、物価が高止まり傾向にある中でも、学校給食の質と量を維持していくことが求められています。 老朽化した調理場について、計画的な改築等整備が必要です。 【方向性】 適正な人的配置や効率的な食材調達などにより、給食の質と量を維持します。また、国・県に対する必要な要望等を行っていきます。 食農体験事業「暮らしのなかの食」の取り組みを小中学校 21 校で継続します。 衛生的な調理環境で安全な給食を作るため、計画的な施設整備に努めます。			
自己評価	B			

(4) 学校施設の長寿命化と適正配置

事 務 事 業	No.10	学校施設の改修整備	R6 年度決算額	65,109 千円
事業の目的	○児童生徒の安全確保と地域の防災拠点の整備を図るため、小中学校施設のトイレの改修及び空調設備の設置を行います。 ○施設の維持管理を行うとともに、教育環境の改善を図るため、校舎内外の大規模改修整備を行います。			
事業内容	○長寿命化・改修工事 照明のLED化等の改修を行うとともに、空調設備の設置、洋式化を含めたトイレ改修を進めています。			
達成状況	○トイレ改修工事の実施 (1) 富県小学校トイレ改修工事 ○大規模改修工事等 (1) 伊那中学校特別教室等（空調設備設置） (2) 西箕輪中学校特別教室等（空調設備設置）			
事業の課題及び方向性	【課題】 市内小中学校施設は、昭和40年代後半から昭和50年代の児童生徒の急増期又はそれ以前に建築されたものが過半数を占め、プール等の設備を含め老朽化対策が喫緊の課題になっており、照明のLED化や空調設備の設置を含む安全な学習環境のための対策が急務となっています。 【方向性】 令和2年度に「学校施設長寿命化計画（個別計画）」を策定しました。引き続き、国などの有利な財源を活用し、学校施設の改修工事を推進するとともに、施設等の老朽化の状況から計画の前倒し等の検討を進めます。			
自己評価	C			



富県小学校トイレ（洋式化改修）



伊那中学校第一理科室（空調設備設置）

1－2：教育連携

地域の高等学校と連携を図り、社会変化に対応した教育内容の充実と魅力ある高等教育について働きかけるほか、引き続き過疎地域・私立高等学校の振興のため支援に取り組みます。また、大学や短期大学との連携・交流により、高度で専門性のある教育を受ける環境を創出します。

(1) 高等学校との連携

事務事業	No.1 1	高等学校振興	R6 年度決算額	3,000 千円															
事業の目的	過疎地域の高等学校の振興を図るため、高遠高等学校振興会の活動を支援します。																		
事業内容	高遠高等学校振興会活動の支援																		
達成状況	<p>○高遠高等学校振興会へ負担金を支出し振興会事業を支援しました。</p> <p>○H23 から振興会で行う通学費補助事業の経費を市で負担しています。</p> <p>○H 7 にコース制導入後、文科省の学力向上実践研究校としての実践研究（H21 から3年間）、長野大学、日本福祉大学、東京藝術大学など高大連携の拡充を図るとともに、H24 には、高遠高等学校の将来像検討委員会を設置し、教育内容の改善、充実に努めています。また、伊澤修二記念音楽祭ほか、地域や保育園、小中学校と連携した取組を進めています。</p> <p>○入学者数の推移</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>R 3</th><th>R 4</th><th>R 5</th><th>R 6</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入学者数</td><td>103</td><td>103</td><td>105</td><td>79</td></tr> <tr> <td>定 員</td><td>120</td><td>120</td><td>120</td><td>80</td></tr> </tbody> </table> <p>○バス通学費補助 131 人、1,600 千円 (R3:133 人、1,600 千円、R4:125 人、1,600 千円、R5:112 人、1,600 千円)</p>					R 3	R 4	R 5	R 6	入学者数	103	103	105	79	定 員	120	120	120	80
	R 3	R 4	R 5	R 6															
入学者数	103	103	105	79															
定 員	120	120	120	80															
事業の課題及び方向性	<p>【課 題】定員確保、高等学校再編後も存続可能な将来像の構築が求められています。</p> <p>【方向性】高遠高等学校は、コース制を導入する等、特色ある学校運営を行っています。地域の魅力ある学校として発展していくためにも、「高遠学園構想」に基づく特色ある教育の拡充、高遠中学校等との連携及び定員確保へ向けた遠距離通学者の利便性を高める支援が引き続き必要です。</p>																		
自己評価	B																		

事務事業	No.1 2	私立高等学校振興	R6 年度決算額	860 千円
事業の目的	地域の私立高等学校の振興を図るため、私立高等学校の運営を支援します。			
事業内容	伊那西高等学校に対する支援 ・職員の待遇改善・福利厚生、保護者の負担軽減等の支援			
達成状況	<p>同校は、市内の生徒を多数受け入れており、地域の高等学校教育に大きな役割を果たし、地域に根ざした高等学校として定着しています。</p> <p>【参考】定額補助 1 校当たり600,000円 (H22から600,000円) 生徒割補助 1 人当たり 2,600円 (H22から 2,600円) 伊那市に住所を有する生徒数 100 人 (R3:166 人、R4:159 人、R5:133 人) 全校生徒数 355 人 (R3:422 人、R4:405 人、R5:366 人)</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課 題】S63 から普通コース、進学コースの2コース制を導入しています。地域の中学校との連携を重視し、受験機会の複数化、特色ある教育の充実及び定員確保に引き続き努めていく必要があります。</p> <p>【方向性】地域の高等学校教育に果たす役割や学校運営を取り巻く厳しい状況を考慮し、学校運営費補助を継続して行います。</p>			
自己評価	B			

(2)大学・高等学校との学習連携

事 務 事 業	No.1 3	大学・高等学校等との連携	R6 年度決算額	0 千円
事業の目的	高度で専門性のある教育を受ける環境を創出します。			
事業内容	大学、市内高等学校との学習連携強化			
達成状況	<p>【富県小学校】(連携学校 上伊那農業高校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上伊那農業高校コミュニティデザイン科里山コースの生徒と5年生が昨年度から交流。サツマイモの苗を植えて収穫したり、上農生の作った作品を紹介してもらったり、経木を使った工作を上農生に教わりながら作ったりしている。 <p>【伊那西小学校】(連携学校 信州大学)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信州大学教授による熊と遭遇しないための学習、熊と遭遇した時の行動など、熊の生態についての学習指導 <p>【西箕輪小学校】(連携学校 信州大学)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信州大学農学部学生ボランティアによる学習支援 <p>【西春近北小学校】(連携学校 伊那西高校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊那西高校ソフトボール部の生徒による、クラブ活動への指導 <p>【高遠小学校】(連携学校 高遠高校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高遠高校生による書き初めの指導(4～6年)、合唱部員による音楽会で合唱を披露 <p>【高遠北小学校】(連携学校 東京藝術大学)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京藝術大学山下薫子先生による音楽指導(5年) <p>【長谷小学校】(連携学校 高遠高校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高遠高校の生徒が音楽会に参加 <p>【東部中学校】(連携学校 東京藝術大学)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京藝術大学の学生による吹奏楽部の指導 ・学習委員会が、3年生に対して本校の卒業生の上伊那地区高校生から、高校生活について進路講話を受けている(企画名:高校生から学ぼう)〃 <p>【高遠中学校】(連携学校 高遠高校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高遠高校の生徒による歌唱指導 <p>【長谷中学校】(連携学校 高遠高校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中合同音楽会に、高遠高校合唱部が参加 <p style="text-align: right;">(取組 10校/21校)</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課 題】連携にあたっては、互恵関係がある活動とすることが望まれ、実施にあたっては時期や時間の調整など事前準備が必要となります。</p> <p>【方向性】学習に係る取組によりより高度な知識やスキルを身につけることで学習意欲が高まったり、進学先の情報を得ることで進路選択のサポートにつながったりすることが期待されます。</p>			
自己評価	B			



上伊那農業高校生徒と経木使った作品を製作



高遠高校生徒の音楽会参加

1－3：心の教育

小中学校における心の問題や不登校、いじめ、虐待問題など様々な悩みを抱える児童生徒に対して、各種相談やきめ細かな支援を行うため、学校・家庭・地域・関係機関の連携強化を図るとともに、良好な環境の中で育てができるよう家族全体を支援します。

(1) 不登校対策の推進

事務事業	No.1 4	中間教室	R6 年度決算額	9,317 千円
事業の目的	不登校の児童生徒の居場所を確保し、集団適応指導、学習指導及び教育相談等を行います。			
事業内容	<p>中間教室の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適応指導員による相談支援、体験活動、集団活動、学習指導等 <p>【小学部】月曜日～金曜日、時間：9:00～15:00、会場：やまびこ学級</p> <p>【中学部】月曜日～金曜日、時間：9:00～15:00、会場：やまびこ学級</p> <p>【夜間部】月曜日～水曜日、時間：17:30～20:00、会場：やまびこ学級</p> <p>【寺子屋】月曜日～金曜日、時間：要相談、会場：市内公民館</p> <p>【伊宝館】木曜日、時間：9:00～16:00、会場：伊宝館</p>			
達成状況	<p>○中間教室通室児童生徒に対し、集団適応指導、学習指導及び教育相談等を行いました。また、教育支援コーディネーターを配置するとともに、夜間部（夜の中間教室）、寺子屋（分室）及び食農体験型の中間教室「伊宝館」を運営し、多様な学びの場の確保に努めました。</p> <p>【参考】通室者数 小学部 29人（R2:3人、R3:9人、R4:17人、R5:17人）</p> <p>中学部 29人（R2:10人、R3:22人、R4:30人、R5:19人）</p> <p>夜間部 17人（R3:10人、R4:13人、R5:14人）※重複計上あり</p> <p>寺子屋 8人（R3:11人、R4:11人、R5:4人）</p> <p>伊宝館 21人（R4:18人、R5:17人）※重複計上あり</p> <p>通室割合（通室児童生徒数／不登校児童生徒数）</p> <p>小学生 25.0%（R2:10.7%、R3:19.6%、R4:21.0%、R5:20.3%）</p> <p>中学生 25.7%（R2:16.7%、R3:19.6%、R4:25.2%、R5:21.3%）</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】長期化した不登校児童生徒への支援が課題であり、未然防止、早期発見、早期対応が求められています。</p> <p>【方向性】学校、子ども相談室、医療機関等との連携を図りながら、児童生徒、家庭への早期対応、支援に努めます。</p> <p>不登校となっている児童生徒が、将来自立できるように（ひきこもりとならないために）訪問型の支援や多様な学びの場の充実など、新たな取組を推進します。</p>			
自己評価	A			

事務事業	No.1 5	不登校児童生徒支援ネットワーク	R5 年度決算額	30,104 千円
事業の目的	指導主事、学校、子ども相談室、中間教室、福祉、医療、民間支援団体等、関係機関が連携し不登校児童生徒の早期発見、早期対応、支援を行います。			
事業内容	<p>○指導主事、学校、中間教室、子ども相談室等が連携した不登校児童生徒の支援</p> <p>○中学校への市費特別加配講師の配置</p> <p>○不登校等の児童生徒に対するNPO法人と連携した居場所の提供</p> <p>○子どもの居場所づくりを行うNPO法人の運営支援</p>			
達成状況	<p>○不登校児童生徒は増加傾向あります。</p> <p>○不登校・不適応の傾向を持つ生徒の生活指導や教科指導を行うため、中学校に市費特別加配講師を配置しました。（5中学校へ14人）</p> <p>【参考】不登校児童生徒数・割合（ ）は%</p>			

		R 3	R 4	R 5	R 6
	小学校	46 人 (1. 35)	81 人 (2. 40)	118 人 (3. 50)	116 人 (3. 47)
	中学校	112 人 (5. 91)	119 人 (6. 54)	155 人 (8. 76)	133 人 (7. 81)
	合計	158 人 (2. 97)	200 人 (3. 85)	273 人 (5. 32)	249 人 (4. 93)
事業の課題及び方向性	【課 題】 早期発見、早期対応等により、不登校を長期化させない対応が必要です。 【方向性】 「チーム学校」として関係教職員が連携し、相談・支援体制の充実を図るとともに、関係機関と連携して対応します。また、児童生徒理解に基づく不登校児童生徒の早期発見・早期対応等、新たな不登校を出さないための取組を強化します。				
自己評価	B	※不登校児童生徒減少のため。			

(2) 虐待防止対策の推進

事 務 事 業	No.1 6	教育支援相談、家庭児童相談		R6 年度決算額	37,775 千円		
事業の目的	親の養育力や家族機能を高め、子どもの自立へ向けての生きる力を培うため、家族、地域、関係機関が連携し、乳幼児期から思春期までの子育てや教育に関する相談支援を行います。						
事業内容	○子ども及びその家庭に関する相談対応及び要保護児童対策地域協議会の運営 ○教育に関する相談対応及び教育支援委員会の運営 ○要保護・要支援児童及び家庭への必要な支援の実施 ○ヤングケアラーの把握とケースに応じた支援の実施						
達成状況	○虐待通告や相談に対し、児相・警察・学校などの関係機関と連携しつつ、要対協議や、個別ケース支援会議を開催し対応を図りました。 ○教育支援委員会を年間 22 回開催し、その児童生徒に合った適切な就学及びその後の一貫した教育支援を行いました。 ○支援の必要な家庭に対し、一時休息（レスパイト）事業、ヘルパー訪問事業等を実施しました。 ○ヤングケアラー把握のための調査を行い、該当家庭に必要な支援を行いました。 【参考】						
			R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
	虐待通告	件数	101 件	77 件	61 件	44 件	71 件
		人数	163 人	120 人	107 人	67 人	116 人
	相談件数		1,982 件	1,905 件	1,722 件	1,875 件	2,003 件
	ケース検討会議開催件数		258 回	232 回	373 回	369 回	365 回
	教育支援委員会に諮った児童数		113 人	119 人	115 人	139 人	177 人
	レスパイト利用者数 (延)	宿泊	34 人	48 人	40 人	51 人	94 人
		日帰	61 人	87 人	110 人	82 人	96 人
	ヘルパー訪問 (延)	件数			132 件	387 件	170 件
時間				187 時間	271 時間	168 時間	
事業の課題及び方向性	【課 題】相談内容が複雑化・重篤化しています。困難な問題を抱えた家庭との関わりには、関係機関との連携に加え、携わる職員の経験や専門性、長期間の継続支援による家庭との信頼関係などが重要であり、相談支援を継承できる体制づくりが必要です。 【方向性】日頃の情報共有など、関係機関との連携の更なる充実を図りながら、寄せられる相談内容等に対し、的確な対応のできる体制づくりを推進します。						
自己評価	B						

(3)いじめ防止対策の推進

事 務 事 業	No.1 7	子どもと親の相談員の配置	R6 年度決算額	17, 161 千円
事業の目的	児童生徒やその保護者が抱える不安や、悩みの相談に当たる相談員を小中学校に配置し、児童生徒が安心して充実した学校生活を送ることができるよう支援します。必要に応じて子ども相談室、中間教室、スクールカウンセラー等と連携し、不登校、不適応傾向の児童生徒とその保護者の支援を行います。			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童生徒の話し相手・悩み相談 ○ 不登校傾向の児童生徒の早期発見・早期対応（家庭訪問含む） ○ 不登校児童生徒及び不登校児童生徒をかかえる家庭への対応等 ○ 市費による子どもと親の相談員の配置 相談員 13 人を 15 校へ配置（2 校兼務 2 人） 			
達成状況	<p>小学校における延べ相談件数 10, 325 件 (R3:7, 020 件、R4:7, 657 件、R5:10, 007 件)</p> <p>中学校における延べ相談件数 5, 131 件 (R3:4, 968 件、R4:4, 962 件、R5:5, 607 件)</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課 題】 不登校やいじめに発展する前の早期対応が大事であり、児童生徒やその保護者に対する相談支援体制の一層の充実が求められています。</p> <p>【方向性】 必要に応じ専門機関と連携を図り適時の支援ができるよう、相談体制の充実を図ります。</p>			
自己評価	B			

事 務 事 業	No.1 8	スクールカウンセラーの配置	R6 年度決算額	2, 425 千円
事業の目的	児童生徒、保護者及び教職員等に対し、心理的側面から専門的援助を行い、教育相談体制の充実を図ります。			
事業内容	<p>スクールカウンセラーの配置 全小中学校</p> <p>・ 県費配置 5 人に市費による配置時間の上乗せを行い、適時の相談支援に努める。</p>			
達成状況	<p>県から配当された相談時間では十分な対応ができないため、市費で相談時間の上乗せを行いました。</p> <p>【参考】 相談件数 小学校延べ581件 (R3:539件、 R4:715件、 R5:619件) 中学校延べ390件 (R3:401件、 R4:299件、 R5:306件)</p> <p>相談時間 県費 1, 161時間 (R3:1, 091時間、 R4:1, 113時間、 R5:1, 132時間) 市費 470時間 (R3:476時間、 R4:463時間、 R5:439時間)</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課 題】 不登校等、児童生徒やその保護者への早期対応が求められていますが、十分な人的配置がされているとは言えない状況にあります。</p> <p>【方向性】 県の配当時間を増やすよう働きかけるとともに、市としても必要な時間について引き続き予算の確保に努めます。</p>			
自己評価	B			

1－4：青少年健全育成・家庭教育

青少年の健全育成に向けて、安心安全を踏まえた学童クラブの施設整備に努め共働き世帯を支援するとともに、学校、地域と連携し、青少年を育てる環境づくりを進めます。

(1) 子どもの居場所と安心安全の確保

事務事業	No.19	少年補導委員会・少年補導センター	R6 年度決算額	459 千円
事業の目的	青少年の健全育成と非行防止を図るため、関係団体と連携を図りながら、街頭巡回などを実施します。			
事業内容	少年補導センター及び補導委員の配置 ・少年補導センターの運営 ・補導委員は、55 人を 11 班に編成し、毎週土曜日に街頭巡回を実施。 ・11 月の「子ども・若者育成支援強調月間」には、伊那市駅前で啓発活動を実施			
達成状況	街中で青少年の姿を接する機会は減少しており、巡回場所や巡回回数の見直しを行いつつ、実施しました。 【参考】 巡回活動延べ人員 108 人 (R4:74 人、R5:211 人) 声かけ件数 0 件 (R4:2 件、R5:24 件)			
事業の課題及び方向性	【課題】 過疎化、高齢化などにより地区役員の選出が課題となっています。また、インターネット上でのトラブルなどの新しい問題が増えています。 【方向性】 環境の変化を見ながら、引き続き、新たな活動内容について検討していきます。			
自己評価	B			

事務事業	No.20	学童クラブ	R6 年度決算額	100,169 千円
事業の目的	下校後、保護者が就労などにより不在のため、適切な保護が受けられない児童の保護及び健全育成を図ります。			
事業内容	学童クラブの設置 伊那小、伊那東小、伊那北小、伊那西小、富県小、新山小、美篤小、手良小、東春近小、西箕輪小、西春近北小、西春近南小、高遠小、高遠北小、長谷小の全 15 小学校に開所			
達成状況	利用希望者は通常学童クラブに加え、長期休業中の特別学童クラブでも増加しています。特別学童クラブでは伊那東小、東春近小の利用希望者が多かったため、小学校、公民館を活用して 2 クラブ体制で受け入れを行いました。 ○施設整備 伊那東小学童クラブ床修繕工事 385 千円 西春近南小学童クラブ建具修繕工事 421 千円 伊那小学童クラブカーテン購入 163 千円 【参考】 登録者数 839 人 (R4:725 人、R5:744 人) 登録者数／児童数 25.8% (R4:21.5%、R5:22.1%)			
事業の課題及び方向性	【課題】 保護者の共働き世帯の増加等に伴い、利用人数が増加しています。 【方向性】 施設の老朽化及び手狭な施設に対する整備、支援員の確保などについて、学校などと連携を図りながら対応していきます。また、システムを導入し支援員の負担減を図ります。			
自己評価	C			



学童クラブの様子

(2) 地域・関係機関との連携による家庭教育の充実

事務事業	No.2 1	青少年育成対策	R6 年度決算額	2,476 千円
事業の目的	各地区子ども会・育成会などと連携し、青少年の健全育成事業を推進します。			
事業内容	○地区における青少年の健全育成活動等に対する補助 ○有害環境のチェック活動の実施 ○よりよい教育環境推進協議会の運営 ○「わんぱくひろば」の開催 ○情報紙「えがお」の発行			
達成状況	・34 地区育成会で実施された様々な活動に対し補助を行いました。 ・第 46 回わんぱくひろばを開催することができました。延べ 2,105 人の子どもたちが新緑の自然の中で、ターザンロープなどの体験や工作を楽しみました。 ・7 月に有害環境チェック活動を行いました。(75 人参加) ・学校の活動等を紹介する情報誌「えがお」を、年 8 回発行しました。			
事業の課題及び方向性	【課題】 過疎化、高齢化などにより指導者や役員の選出が課題となっています。 【方向性】 子ども会・育成会は、地区の青少年健全育成の中心として大きな役割を担っており、引き続き連携した活動を行っていきます。			
自己評価	B			

事 務 事 業	No.2 2	二十歳のつどい	R6 年度決算額	1, 257 千円		
事業の目的	二十歳の節目を祝い、成人としての意識の高揚を図るため、式典を開催します。					
事 業 内 容	二十歳のつどいを公民館単位の 10 地区で実施 伊那地区（対象：21 歳に到達する者 開催 8 月 14 日、15 日） 高遠町地区・長谷地区（対象：20 歳に達する者 開催 1 月 1 日、2 日）					
達 成 状 況	伊那地区を令和 6 年 8 月 14、15 日に、高遠町・長谷地区を令和 7 年 1 月 1、2 日に開催しました。出席者、出席率とも前年より微減となったが、懐かしい恩師や仲間と出会い、笑顔があふれた機会を提供出来ました。					
	令和 6 年度伊那市二十歳のつどい実施状況					
	地区	開催日	会場	対象者	出席者	出席率
	竜西	令和 6 年 8 月 15 日	いなっせ	150	89	59. 3%
	竜東		いなっせ	229	118	51. 5%
	富県		富県公民館	38	30	78. 9%
	美篁		美篁公民館	73	43	58. 9%
	手良	令和 6 年 8 月 14 日	手良公民館	29	25	86. 2%
	東春近	令和 6 年 8 月 15 日	東春近公民館	79	53	67. 1%
	西箕輪		西箕輪公民館	93	51	54. 8%
	西春近		西春近公民館	67	47	70. 1%
	高遠町	令和 7 年 1 月 2 日	やますそ	48	34	70. 8%
	長谷	令和 7 年 1 月 1 日	長谷公民館	16	12	75. 0%
	合 計			822	502	61. 1%
事業の課題 及び方向性	【課 題】開催方法、時期について全市での開催を求める声があります。 【方向性】開催方法、時期について早期に決定していきます。					
自 己 評 価	B					

第2節 生涯にわたる学びの支援

信州大学や東京藝術大学をはじめとする教育機関等との連携を図りながら、市民一人ひとりが目的に応じて、「いつでも、どこでも、いつまでも」学ぶことができるよう、学習機会の充実と環境づくりを進めます。

また、国指定史跡である高遠城跡などの有形文化財をはじめ、無形民俗文化財など地域の文化財や伝統芸能の保存・継承・活用を推進するとともに、歴史・文化・芸術の振興を図ります。

2-1：生涯学習

生涯学習の総合的な指針「第2次伊那市生涯学習基本構想」に基づく計画的な事業実施により、自然や文化、歴史、産業等地域の特徴を生かした生涯学習を推進し、年齢や職業を超えたあらゆる人々が興味を持って学ぶことのできる環境づくりに努めます。また、地域文化や生涯学習の拠点として、公民館の適正な維持管理に努め、施設の長寿命化を図るための施設改修等を行うほか、地域の「知の拠点・情報拠点」としての図書館の充実・活用を図るとともに、上伊那地域の図書館との連携により、利用者の利便性向上に努めます。

(1)生涯学習・社会教育の推進

事務事業	No.23	市民大学・市民大学大学院	R6年度決算額	3,529千円
事業の目的	生涯学習における市民の機運を醸成し、学習推進のための機会を創出します。			
事業内容	芸術文化、歴史、自然科学、健康、音楽、人権などに関する講座の開催			
達成状況	【市民大学】様々な分野での学習探究の場として幅広く、充実した講座を開催しました。			
	令和6年度 講座内容			
	入学式・記念講演（JAXA 主任開発員児玉 哲哉 氏）			
	たけちゃんのいきいき脳トレ健康講座（長野県リハビリテーション協会 会長 竹中 雅幸 氏）			
	伊那市人権同和教育講座講演会（論講師 弁護士 大胡田 誠 氏）			
	文学講座（文学研究家 堀井 正子 氏）			
	市政講演会まほらいな市民（大学学長 白鳥 孝 伊那市長）			
	高遠町桜大学講座 第3講座（長野吉田高校教諭 六川 宗弘 氏）			
	健康体操講座伊那市総合型地域スポーツクラブ（操体法講師 城倉 通浩 氏）			
	法話『人生の宝をあつめる』東春近（護国寺前住職 杉田 寛仁 氏）			
	『昔の遊び～園児とともに～』（こまのたけちゃん 武田 勉 氏）			
	『古社寺を巡る』（まほらいな市民大学副学長 福興 雅寿 教育長）			
	ふるさと講座 上戸地区自主防災会の活動上戸地区（自主防災会 部長 宮島 勝 氏）			
	『伊那ビデオクラブ作品集から⑤』（伊那ビデオクラブ会長 赤羽 仁 氏）			
	『市民大学 歌声広場 パート2』（アンサンブル紅麗葉 代表 気賀沢美香 氏）			
事業の課題及び方向性	【参 考】第26期 前期 学生数 33人 13講座 第27期 前期 学生数 25人 13講座			
	【市民大学大学院】市民大学修了者を対象に、さらに学習を深めていただく専門的な学びの場として2つのコースを用意し、9期後期、10期前期を開講しました。			
	令和6年度 研究内容			
	歴史コース：伊沢修二の生い立ちと音楽、子どもの頃の伝聞と幻の絵図を探して			
	自然科学コース：私のまわりの野鳥			
	【参 考】第10期前期 歴史コース 1人2講座 自然科学コース 1人2講座			
自己評価	【課 題】学生増加を目指し、充実した学習機会とすべく、受講者の学習要求を的確にとらえた魅力ある講座運営を行う必要があります。			
	【方向性】受講生による自主運営を基本に、魅力ある講座等を企画運営します。また、学習の成果が地域での活動に活かせるように促します。			
自己評価	B			

事務事業	No.24	高遠町桜大学	R6 年度決算額	350 千円
事業の目的	生活にうるおいと生きがいを与え人生を心豊かに生きるため、生涯学習の場を提供します。			
事業内容	講座の開催（4月29日～11月30日 会場：高遠町総合福祉センター やますそ）			
達成状況	公民館活動のひとつとして46回目を迎えた、高遠町地域の内容を主とした伝統ある学習の場です。			
	令和6度講座内容（講師）			
	「磐梯山麓の地に祀られる正之公」 土津神社氏子会会長 安藤 孝一 氏			
	「高遠とわが人生」 芸人・画家・俳優・プロボクサー・ヨーギー・伊那市芸術文化大使 片岡 鶴太郎 氏			
	「島村利正 作品とその世界」 島村利正研究第一人者・長野吉田高校教諭 六川 宗弘 氏			
事業の課題及び方向性	【参 考】受講者数308人（R4:300人、R5:440人）			
	【課 題】講座内容、講師など地域の特性を活かした運営が求められています。 【方向性】高遠町地域に縁がある方、地域について研究されている方などを講師に招き、地域の特性を生かした内容を検討していきます。			
自己評価	B			

事務事業	No.25	長谷地区生涯学習講演会	R6 年度決算額	440 千円
事業の目的	地域住民の生活及び文化、教養の向上を図るため、生涯学習の場を提供します。			
事業内容	講演会の開催（11月9日 会場：長谷公民館 講堂） ・伊那市教育委員会、長谷小中学校、小中学校PTAが主催する著名な講師を招いた講演会の開催。			
達成状況	演題：木久蔵流 笑うが一番 （講師：二代目 林家 木久蔵さん 落語家） 笑いは健康に一番いいことです。当たり前のように何気ない生活ができていることが実は真の幸せですとの話に、来場者は、熱心に耳を傾けていました。			
	【参 考】聴講者数120人（R3:73人、R4:86人、R5:120人）			
事業の課題及び方向性	【課 題】貴重な機会であり、長谷地区をはじめ、より多くの市民に聴講してもらっていますが、会場や周辺駐車場のキャパシティを考慮すると定員制を設けて事前予約制とせざるを得ない状況です。			
	【方向性】過疎化や高齢化の進む地域においても住民が質の高い文化に触れられる貴重な機会として、今後も工夫しながら進めます。			
自己評価	B			



長谷地区生涯学習講演会の様子

(2) 公民館活動の推進

事 務 事 業	No.2 8	集会施設整備事業補助	R6 年度決算額	10,000 千円
事業の目的	地域住民の福祉の向上、コミュニティの推進、災害時の拠点の確保などに資するため、集会施設等を整備する費用の一部を補助します。			
事業内容	伊那市集会施設整備事業補助金交付要綱に基づき、集会施設の新築・増築・改築及び改修工事の補助金を交付します。 ・対象施設及び交付基準 新築、改修工事、解体、外構			

事 務 事 業	No.2 9	公民館共同事業	R6 年度決算額	6,974 千円
事業の目的	<p>青少年の健全育成と家庭教育の充実を全市統一的に図るため、9 公民館が共同して事業を実施します。</p> <p>地域の公民館分館活動を支援するとともに、公民館活動への理解を深めてもらうための広報誌を発行します。</p>			
事業内容	<p>○キッズ王国やふるさと講座の開催</p> <p>○分館活動委託事業の実施</p> <p>○「公民館報いな」の発行</p>			
達成状況	<p>新型コロナウイルス感染症の5 類移行により、各行事を通常開催することができました。</p> <p>・「ふるさと講座」 開催日 令和7 年2 月7 日 会場 西箕輪公民館 演題「地域一体、家族みんなで進める災害への備え」 講師 宮島 勝</p> <p>・「キッズ王国」 開催日 令和7 年2 月27 日 会場 伊那公民館 参加者 73 組 86 人</p> <p>・84 分館に活動委託</p> <p>・館報毎月発行第547 号～第558 号</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課 題】地域や関係団体と連携し、充実を図る必要があります。</p> <p>【方向性】「子どもが集う公民館」を重点テーマに、参加規模が大きな事業について、支援ボランティアの確保を進めながら公民館全体で共同事業として取り組みます。</p>			
自己評価	B			

事 務 事 業	No.3 0	公民館活動事業	R6 年度決算額	4,108 千円
事業の目的	生涯学習を通じた生きがいづくりや地域づくりを推進するための機会を創出します。			
事業内容	市内9公民館において、高齢者、女性、成人、青少年、家庭など様々な分野において教室・講座・イベントなどを開催すると共に、広く学習の場を提供します。			
達成状況	新型コロナウイルス感染症の5類移行により、各地域の特色や住民要望に応えた様々な講座を通常開催することができました。			
	公民館	令和6年度活動内容（特徴的なもの）		
	伊 那	らっこルーム、女性教室、伊那おやじの会、市民ガーデニング講座、楽しい切り絵教室、小学生将棋教室、分館対抗マレット大会など		
	富 県	トムキャロット、のどか学級、よろず講座、俳句教室、うたの教室、古文書を読む、富県麻雀教室、星空観察会など		
	美 篈	子育て広場、女性教室、親子青空教室、「芽と実」読み聞かせ、童謡・唱歌の集い、健康マージャン教室、ランニング教室など		
	手 良	わいわいくらぶ、おいさんずくらぶ、四ツ葉の集い、手良の歴史講座、水彩アート教室、茶道教室、ゴルフ教室など		
	東春近	くれよんクラブ、女性教室、楽生学級、チャレンジおっとこ塾、童謡唱歌を楽しむ会、楽しい音読教室など		
	西箕輪	わんぱく親子塾、料理教室、陶芸教室、歴史講座、里山ハイキング、通学学習、お仕事体験会など		
	西春近	かるがも学級、かるがもベビー、女論の会、万年青の会、父居屋の会、健康麻雀教室、西春近歴史学習会など		
	高 遠	さくらんぼキッズ、おいさんずくらぶ、桜大学講座、そば打ち講座、石仏講座、コーヒー道へようこそ、和スイーツを味わうゆうべ、各種球技大会など		
長 谷	くじらくらぶ、遊山倶楽部、入野谷講座、うたのラウンジ、ソフトテニス教室など			
夏休み中の小学生を対象として、居場所づくり、学習機会の充実、生活習慣の維持などを目的に、各館において『おいで塾』を行いました。（3～5日間 587人参加）				
【参 考】講座・教室・イベントなど公民館利用者数 137,190人 (R4:131,800人、R5:141,524人)				
事業の課題及び方向性	【課 題】ニーズの高い事業を把握し、実施することや公民館活動を通して、生涯学習と地域づくりを進めることが必要です。 【方向性】伊那市公民館運営協議会活動基本方針に沿って各事業を実施します。 (1)まなぶ…いつでも、どこでも、だれもが学ぶことができ、学び合い、育ち合い、高めあう機会と場を提供します。 (2)つなぐ…出会い、ふれあい、交わりを大切に、仲間づくりと地域の交流を進めます。 (3)つくる…地域課題に取り組み、生き生きとした地域づくりと地域文化の伝承と創造を目指します。			
自己評価	B			



公民館講座の様子

(3)図書館の充実

事務事業	No.3 1	蔵書管理	R6 年度決算額	12,746 千円															
事業の目的	市民が自主的な学習を行う「知の拠点」となるため、図書や情報資料の提供の充実を図ります。																		
事業内容	○伊那図書館、高遠町図書館の運営管理 ○図書館資料の管理（選書、発注、装備・登録・修理、除籍） ○デジとしょ信州選書協力（県と市町村による協働電子図書館） ○古文書資料のデジタル化及び公開 ○図書館システムの維持・管理 ○学習の場の提供																		
達成状況	・図書データのより適正な保守管理、運用に努めました。 ・諸資料の購入・整備、利用者への貸出・閲覧を行いました。 ・資料を有効活用するため、テーマ展示を定期的に行いました。 【参考】 蔵書数は図書のみ、（ ）内 R5 <table border="1"> <thead> <tr> <th>名 称</th><th>蔵書冊数</th><th>貸出冊数</th><th>登録者数（個人）</th><th>利用者数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伊那図書館</td><td>223,118 (222,000)</td><td>308,386 (309,613)</td><td>58,022 (57,139)</td><td>60,263 (60,376)</td></tr> <tr> <td>高遠町図書館</td><td>84,934 (85,773)</td><td>36,610 (37,623)</td><td>4,706 (4,671)</td><td>6,814 (7,354)</td></tr> </tbody> </table>				名 称	蔵書冊数	貸出冊数	登録者数（個人）	利用者数	伊那図書館	223,118 (222,000)	308,386 (309,613)	58,022 (57,139)	60,263 (60,376)	高遠町図書館	84,934 (85,773)	36,610 (37,623)	4,706 (4,671)	6,814 (7,354)
名 称	蔵書冊数	貸出冊数	登録者数（個人）	利用者数															
伊那図書館	223,118 (222,000)	308,386 (309,613)	58,022 (57,139)	60,263 (60,376)															
高遠町図書館	84,934 (85,773)	36,610 (37,623)	4,706 (4,671)	6,814 (7,354)															
事業の課題及び方向性	【課題】 多様化する市民の知的ニーズに応えるとともに、図書や図書館を取り巻く社会状況の変化に対応していく必要があります。 【方向性】 地域の情報・学習センターとしての役割を果たすため、資料の収集や情報提供を積極的に行います。また、古文書資料のデジタル化及び公開を推進します。																		
自己評価	B																		

事務事業	No.3 2	図書館イベント	R6 年度決算額	273 千円
事業の目的	幅広い世代が「実感・体感」を伴った知の獲得と創造する営みの楽しさを得るため、各種イベントを開催するとともに、ボランティアなどの人材育成を推進します。			
事業内容	○おはなしのひろばの開催（職員、ボランティアによる読み聞かせ） ○ブックスタートの実施（乳児へ絵本のプレゼント） ○各種講座 児童対象：おはなしのひろば、おりがみ教室、工作教室など 一般対象：絵本講座など ○伊那図書館開館 30 周年記念イベント（図書館まつり、利用カード新デザイン募集） ○第 1 回古文書解説コンテスト（地域おこし協力隊事業） ○利用者団体への支援			
達成状況	季節毎のイベントや講座に加え、伊那図書館開館 30 周年を記念した特別イベント開催と利用カードの新しいデザイン募集を行い、多くの方に参加していただきました。市民が親しみやすい図書館が定着しています。 古文書解説コンテストを開催して古文書資料の活用を推進しました。 健康推進課と連携し、乳児へ本のプレゼントを行いました。（ブックスタート事業） 【参考】 ブックスタート 353 冊 （R4:431 冊、R5:381 冊） イベント 5,263 人 （R4:3,174 人、R5:4,792 人） 広域情報コーナー利用 15 団体 （R4:19 団体、R5:14 団体）			
事業の課題及び方向性	【課題】 市民に身近な図書館となるために、市民との協働による図書館運営を図ると共に、幅広い年齢層を対象とした企画運営を行っていく必要があります。 【方向性】 市民のニーズを探りつつ、幅広い世代向けのイベントや講座を開催して魅力ある図書館運営を進めます。			
自己評価	A			



開館 30 周年記念イベント（キッズコンサート）



第 1 回古文書解読コンテスト

事務事業	No.33	図書館分館	R6 年度決算額	4,013 千円
事業の目的	地区住民の図書館利用の利便を図るため、地区公民館に図書室を設置し、図書や情報資料の提供の充実を図ります。			
事業内容	○図書館分館（公民館図書室）の運営と管理 ○西春近公民館図書室の充実 ○学習の場の提供			
達成状況	各公民館図書室の諸資料の購入整備及び利用者への閲覧・貸出等の管理・運営を行いました。西春近公民館図書室の蔵書充実と周知に努めました。 【参考】 蔵書数は図書のみ、（ ）内 R5			
	名 称	蔵書冊数	貸出冊数	個人登録者数
	東春近	19,870 (19,682)	22,376 (22,515)	1,458 (1,446)
	富 県	15,036 (15,125)	14,478 (12,764)	801 (794)
	手 良	14,401 (14,247)	19,554 (19,719)	529 (515)
	長 谷	11,936 (12,032)	3,260 (3,359)	214 (214)
	美 簫	17,651 (17,599)	24,298 (24,801)	1,022 (1,007)
	西箕輪	8,775 (8,523)	15,922 (16,425)	495 (479)
	西春近	5,339 (4,781)	7,730 (7,399)	48 (40)
	合 計	93,008 (91,989)	107,618 (106,982)	4,567 (4,495)
	・施設利用率（各地区利用者数／分館設置地区の人口） 58.9%（61.6%）			
事業の課題及び方向性	【課 題】 より身近な地域の図書館として、子どもから高齢者までの利用者の利便を図る必要があります。 【方向性】 より身近に感じていただける図書館サービスについて検討を進めます。			
自己評価	B			

2-2：文化・芸術

多様な文化芸術や伝統芸能などの保存団体の育成を推進するとともに、意識の高揚などを通じて、市民の文化芸術活動の振興を図るとともに、新しい文化の創造を推進します。

歴史資料や美術工芸品、建造物などの文化財は、市民等の学習・研究及び地域の活性化に生かすため、適切な保存管理と有効活用を図ります。また、多様な学習ニーズに対応するため、地域の学習拠点となる各施設の充実に努めます。

(1) 文化芸術の振興と地域文化の育成

事 務 事 業	No.3 4	進徳館の日	R6 年度決算額	182 千円
事業の目的	進徳館教育から先人の遺訓を学び、その精神を現代に活かして歴史と文化のまち伊那市へ一層の発展を図ります。			
事業内容	○式典、基調講演、学習発表など（5月25日 会場：進徳館、高遠閣） ○剣道大会（会場：高遠町文化体育館）			
達成状況	実学重視の藩校「進徳館」の学びの心に触れ、藩校教育の伝統や精神を継承し、地域の生涯学習の振興を図る事業として地域に定着しています。また、旧高遠藩主をはじめ、藩関係者との交流の機会ともなっています。 【参考】 ○第30回進徳館の日 ・五聖像に礼拝、式典、基調講話、記念講演 参加人数 120人（R4:120人、R5:130人） ○第26回進徳館の日記念少年剣道大会 参加チーム数 19（個人戦83人、団体戦71人）（R4:13(51人)、R5:16(72人)）			
事業の課題及び方向性	【課題】藩校「進徳館」の藩校教育の伝統や精神を継承し、その精神を現代に生かした事業を行う必要があります。 【方向性】進徳館教育の精神や優れた点を学び、現代社会に対応する方策を創造すると共に、広くPRすることによりこの事業の活用と充実に努めます。			
自己評価	B			

(2) 文化財の保存・継承・活用

事 務 事 業	No.3 5	史跡高遠城跡	R6 年度決算額	780 千円
事業の目的	伊那市の歴史財産である城跡の価値を損なうことなく次世代へ受け継ぎ、だれもが地域の歴史や文化を学ぶことができる環境づくりを進めるため、史跡の保存整備を行います。			
事業内容	○史跡高遠城跡保存活用計画の策定作業			
達成状況	○中高生の意見を取り入れながら計画案を作成しました。計画策定委員会（4回実施）や、庁内検討委員会（4回実施）で計画案の検討を行い、文化庁各部門との協議を進めながら、計画の方向性を示すことができました。 ○高遠高校生徒と計画策定委員会との懇談会の実施 ○高遠中学校生徒向けワークショップの実施 参加者 40名			
事業の課題及び方向性	【課題】保存活用計画を策定した上で、適切な保存管理、整備、活用を進め、高遠城跡を未来へ確実に受け継いでいく必要があります。 【方向性】計画策定後は、計画に基づき保存活用事業を進めるとともに、保存活用に必要な整備に向けた整備基本計画を策定します。			
自己評価	B			



左：「商家昌昌」
（市指定文化財
『高藩探勝』中巻）

右：「郭上鶴」
（市指定文化財
『高藩探勝』下巻）

事 務 事 業	No.3 6	民俗資料館	R6 年度決算額	3,822 千円
事業の目的	民俗資料を継承するため、資料を収集・保管・整理・展示するとともに、体験できる施設として「高遠なつかし館」を、歴史的建造物の「旧馬島家」、「旧池上家」を企画・運営します。			
事業内容	○高遠なつかし館、旧馬島家、旧池上家の企画運営			
	施設名	内 容 等		
	高遠なつかし館	住民から集めた昔懐かしい農具や生活用品などを展示しています。機織りや縄ない、蓄音機、足踏みオルガンなどの体験ができます。高遠藩医を勤めた馬島家に関する資料も展示しています。		
	旧馬島家 (県宝)	江戸時代に高遠藩の眼科医を勤めた馬島家の住宅です。本棟造りの建物で、後世の改造が少なく、建造当初（天保7年（1836）頃）の形式を残しており、高遠藩当時の規模の大きな住宅の間取りを良く示しています。馬島家に関する資料も展示しています。		
	旧池上家 (市指定文化財)	豪壮な歴史の重さを感じる建物で、間口5間、奥行9間の町屋造り板葺きの住宅です。町屋造りの家屋としては町内で最も古く、多くの古文書が所蔵されています。池上家は、高遠城下で醤油や酢の自家醸造や販売を営みながら、代々町の重職を務めました。		
	○企画展示の開催（年2回）			
達成状況	○企画展			
	「ひな人形展」2月10日～4月21日 60日開催 3,454人			
	「五月人形展」4月29日～6月18日 34日開催 343人			
	○講座・体験イベント			
	向山雅重の世界（11月26日） 参加者 16人			
	布草履教室6月23日、24日、30日、7月7日、11月10日、17日 参加者 55人			
	親子でナイトミュージアム in 民俗資料館（9月21日）参加者 30人			
	もみじ祭り 秋のお茶会（10月20日） 参加者 15人			
	しめ縄教室（12月8日） 参加者 11人			
	わら細工教室（1月12日、19日、26日） 参加者 26人			
事業の課題及び方向性	お雛祭り 春のお茶会（3月2日） 参加者 34人			
	【参 考】年間入館者数5,022人（R4：5,931人、R5：5,138人）			
	【課 題】年間来館者が少なく、効率良く運営するための検討を行う必要があります。			
自己評価	【方向性】効率の良い運営方法の検討に併せ、新たな企画展、体験講座などを実施しながら、集客できる施設運営に努めます。			
	B			



ナイトミュージアムの様子（県宝旧馬島家住宅）



市指定文化財旧池上家住宅

事務事業	No.37	旧井澤家住宅	R6 年度決算額	3,093 千円
事業の目的	伊那街道伊那部宿の宿内で唯一の本棟造で最古の建物を保存するとともに、一般公開し活用を図ります。			
事業内容	○管理・運営を、指定管理者制度により「伊那部宿を考える会」に委託 ○一般公開			
達成状況	○一般公開を行いました。 ○「鯉幟の掲揚」、「ひな祭り」、「刺繍展」、「わが家のお宝展」、「雅楽演奏会」などの行事を行ったほか、防火訓練を年2回実施し、文化財の火災予防にも努めました。 【参考】入館者数 1,084 人 (R3:290 人、R4:496 人、R5:1,133 人)			
事業の課題及び方向性	【課題】地元の歴史的施設として有効に活用するとともに、周辺施設とも関連させながら、常に魅力ある運営を継続して進める必要があります。 【方向性】地元の伊那部宿の貴重な歴史資料を活かし、多くの来館者を誘客できる施設となるよう指定管理者と連携しながら管理運営を進めます。			
自己評価	B			

事務事業	No.38	民俗文化の伝承	R6 年度決算額	59 千円
事業の目的	「山寺のやきもち踊り」や「中尾歌舞伎」、「高遠囃子」などの民俗文化を継承する活動を支援します。			
事業内容	民俗文化の継承を図るため、国・県・市の補助・助成制度を活用した支援を行います。			
達成状況	○伝統文化親子教室事業（文化庁）を活用（6 団体） 前年度活用団体や、生涯学習課で後援を行った団体等の中で、親子で伝統文化に触れる活動を行っているなど補助金の趣旨に沿った活動を行っている団体に当該補助金の紹介をし、応募のあった 6 団体に、申請の支援及び取りまとめを行い、県教委を通じて文化庁に申請を行いました。 ○中尾歌舞伎を広めるため、定期公演のチラシ・ポスターの印刷をしました。			
事業の課題及び方向性	【課題】人口減少・少子高齢化が進み地域の活力が乏しくなる中、住民自らが地域の民俗文化の伝承意識を持ち、継続的また長期的に活動できる体制づくりが必要です。 【方向性】有利な財源を活用しながら、伝承における人材発掘と育成を進めます。			
自己評価	B			



中尾歌舞伎（市指定無形民俗文化財）



高遠囃子（市指定無形文化財）

事務事業	No.39	市誌編さん	R5 年度決算額	27,150 千円
事業の目的	伊那市の変遷を顧み、市民の郷土に対する関心と愛情を深め、将来の伊那市の発展に資する『伊那市誌』を編さんする。			
事業内容	○伊那市誌編さん委員会の開催 ○9部会（概説、自然、政治行政、産業経済、社会、教育、文化、民俗、年表）の開催 ○市誌編さんに必要な資料の収集、編さん作業 ○編さん業務の一部委託 ○編さん事業の広報（市報掲載、広報紙の発行、広報番組）			
達成状況	○伊那市誌編さん委員会（委員20名）（2回）、部会（73回）を開催し、編さん分野や編さん項目の検討を行いました。 ○令和8年3月末刊行予定の冊子について編さん業務の一部を委託し、冊子の組見本の作成、図版作成、編集作業を行いました。			
事業の課題及び方向性	【課題】 地域史研究者の高齢化や減少、地域資料への無関心化による個人所有の歴史資料の散逸を防ぎ、保全していくことが求められています。 【方向性】 公文書や博物館等所蔵資料を含めた地域資料を、地域の資源として保全しアーカイブ化により活用できるよう検討を進めていきます。			
自己評価	B			



市誌編さん室

広報紙「いなしる」

(3) 文化芸術施設の充実及び活用

事 務 事 業	No.4 O	創造館	R6 年度決算額	50,235 千円
事業の目的	市民の生涯学習の場及び憩いの場として、施設の管理運営を行い、「縄文から宇宙まで」をテーマに自然科学、宇宙、考古、歴史・民俗、芸術、環境などに関する独創的な事業を実施し、夢多き未来に向かって人類の進化の礎である「創造」を実践します。			
事業内容	○ 常設展示			
	展 示 場 所	展 示 内 容		
	常設展示室	「神子柴遺跡出土石器群」、「顔面付釣手形土器」などの考古資料		
	井月展示室	井月顕彰会から寄託を受けた井月の短冊や扇子、柱掛けなど		
	地質展示室	岩石の標本やアンモナイトやカキの化石など		
	昭和の図書館	上伊那図書館時代の書籍、教育会資料など		
	○ 企画展、特別展、講演会、講座等の開催			
	○ その他 資料の保管及び貸館業務（学習室、体験学習室1、体験学習室2、講堂）			
達成状況	【講演会】衣の原点 倭によせて トークショウ 参加者数 32 人			
	高木東六生誕 120 年記念展オープニングイベント 参加者数 22 人			
	ざざ虫と伊那谷の過去・現在・未来 参加者数 55 人			
	【講座等】延べ参加者 498 人			
	宇宙の学校、地球の学校、夏の体験教室、秋冬の体験教室、学校単位での見学受け入れ、自主制作映画祭 ざざむし漁見学会、16mmフィルム上映、			
	【企画展・特別展展示】延べ観覧者 6,990 人			
	ア 常設展示			
	神子柴遺跡出土品及び顔面付釣手形土器の展示(国重文) 入場者数 1,902 人			
	井上井月常設展示室 入場者数 1,570 人			
	イ 企画展示			
	第 31 回企画展 池上秀敏生誕 150 年記念展 3 月 16 日～5 月 27 日入場者数 773 人			
	第 32 回企画展 高木東六生誕 120 年展 7 月 6 日～11 月 4 日 入場者数 687 人			
	第 33 回企画展 昭和のホーロー看板展 12 月 7 日～5 月 26 日入場者数 801 人			
	ウ 特別展			
	伊那市の勾玉集合展 通年 入場者数 494 人			
	陸軍伊那飛行場とその時代 8 月 7 日～9 月 1 日 入場者数 339 人			
衣の原点 9 月 4 日～9 月 30 日 入場者数 216 人				
造形クラブ作品展開始 9 月 4 日～9 月 30 日 入場者数 208 人				
エ 特別常設展示 「信州伊那谷 昆虫食博 おかわり」				
【貸 館】延利用者 7,849 人（R4：9,003 人、R5：11,646 人）				
【参 考】開館日数 304 日、利用者数 22,638 人（R4：20,826 人、R5：25,375 人）				
事業の課題及び方向性	【課 題】他の社会教育施設との事業内容の棲み分けを図るとともに、連携・協働を推進する必要があります。			
	【方向性】未来を担う子どもが興味を持つ企画や、ユニークで魅力ある事業を実践するとともに、学習と交流の拠点施設として、利用しやすい施設の運営に努めます。			
自己評価	B			



伊那市創造館



地球の学 2024

事 務 事 業	No.4 1	高遠町歴史博物館	R6 年度決算額	29,694 千円
事業の目的	市民の歴史文化に係る学習と教養の向上を図るため、地域の歴史と文化に関する資料を収集、保管、展示しつつ、各種イベントの実施により、歴史に親しむ機会を創出します。			
事業内容	○常設展示			
	展示場所	展 示 内 容		
	桜シアター	高遠城址公園に咲く桜映像 高遠城の戦いVR体験		
	山車展示室	貴船社・仲町の山車、鉾持神社の祭礼の衣装、金比羅神社の幟など高遠の祭に関係するもの		
	第1展示室	守屋貞治延命地藏 高遠で発掘された埋蔵文化財 高遠藩主内藤家の調度品、奉納武具や、高遠藩ゆかりの武器・武具 高遠城のジオラマや絵図、合戦図屏風などの高遠城関係資料 等		
	第2展示室	藩校進徳館と「高遠の学」 阪本天山、伊澤修二、伊澤多喜男、中村弥六など地域の先人たち		
	第3展示室	中村不折の書画、池上秀畝の絵画 中馬・杣・石工の道具、石仏師守屋貞治、高遠焼、駕籠 等		
	絵島囲み屋敷	江戸時代大奥で6代将軍家宣の側室月光院に仕えた絵島が、将軍家の墓参の帰路、芝居見物をして帰城が遅れ、公務をおろそかにしたとして罪に問われ、高遠へ遠流となった当時の復原屋敷を展示		
○特別展、講座の開催				
達成状況	【特別展】			
	春季企画展「一池上秀畝生誕 150 年記念展—秀畝の画業」			2 月 23 日～ 6 月 16 日
	第 83 回特別展「軍事郵便でたどる戦争の記憶」			7 月 20 日～ 8 月 25 日
	秋季企画展「山に育まれて」			9 月 14 日～12 月 15 日
	第 11 回上伊那郡市小中学生新聞展			10 月 26 日～11 月 17 日
	【講 座】			
	歴博講座（年 4 回）		参加者数	延べ 143 人
	歴博古文書講座（2 講座 年 5 回）		参加者数	延べ 181 人
事業の課題及び方向性	歴博カフェ（年 2 回）		参加者数	延べ 37 人
	歴博わくわく教室（年 3 回）		参加者数	夏：19 人 秋：609 人 冬：59 人
	【その他】			
	地域文化デジタル化事業			
	【参 考】年間入館者数 15,267 人 （R4：14,494 人、R5：14,540 人）			
	【課 題】市民が歴史文化の学習を進めるために、所蔵資料の活用、情報発信、他の自治体との文化交流を図る必要があります。			
	【方向性】市民が館の取組を知り、伊那の地を愛する想いを高めてもらうよう、魅力ある特別展や講座を企画していきます。			
	引き続き、国立信州高遠青少年自然の家など、他団体と協力、連携を図りながら事業を行っていきます。			
自己評価	B			



第 82 回春季企画展「秀畝の画業」



第 30 回 歴博講座

事 務 事 業	No.4 2	信州高遠美術館	R6 年度決算額	79,721 千円								
事業の目的	地域の方々や伊那市を訪れる方々が芸術文化に触れ、親しんでもらう機会を提供するため、美術館を運営します。											
事業内容	<div>○収蔵作品展・企画展 地元出身の中村不折、池上秀畝、江崎孝坪の作品、原田コレクションなどの収蔵作品を展示。また、観桜期の特別展や市内外で活躍する作家の作品展、若手作家支援のための展覧会を実施</div> <div>○市民ギャラリー展 地元で活動している作家やグループ、高校生、保育園児などの作品を展示</div> <div>○アートスクール・楽☆楽講座 地元芸術家の指導と協力による、陶芸、絵画、書道などの講座を開催</div> <div>○ミュージアムコンサート 国内外で活躍中の演奏家や、地域で活躍する演奏家によるコンサートを実施</div> <div>○美術大学との連携事業 東京藝術大学の学生の感性と伊那市の子どもの感性との掛け合いにより生みだされる美を探るワークショップの実施</div> <div>○施設整備 事業目的を達成するために必要な施設整備の実施</div>											
達成状況	<div>【入館者数】8,509 人（R 4：7,280 人、R 5：10,095 人）</div> <div>○令和6年度企画展</div> <table><tr><th>テ　　マ</th><th>内　　　　　　容</th></tr><tr><td>「気韻生動」の画人 池上秀畝生誕 150 年展 （3月2日～5月19日）</td><td>高遠に生まれ中央画壇において、伝統に立脚しながら写実を重んじた山水画、花鳥画に取り組み、被写体が持つエネルギーを描くことを追い求めた日本画家池上秀畝の生誕 150 年を記念した展覧会を開催しました。</td></tr><tr><td>若手アーティスト展 ー麓芸落合ー （8月24日～11月4日）</td><td>この地域で活動する若手作家6人が、それぞれ異なる手法・技法を以って各々の世界観を表現し、異なる文化が出合うことで生まれる空間を作り出す展覧会を開催しました。</td></tr><tr><td>収蔵作品秀作展 伊那に伝わる美の系譜 （3月8日～5月18日）</td><td>中村不折、池上秀畝をはじめとする郷土ゆかりの作家と木内克、福沢一郎などの原田コレクション作家、東京藝術大学との交流による作家など、伊那に伝わる美の流れを紹介する展覧会を開催しました。</td></tr></table> <div>○ミュージアムコンサート 布施雅也・石川みどりコンサート、川畠成道ヴァイオリンリサイタルを開催しました。</div> <div>○美術大学との連携事業 東京藝術大学の教授・学生による高遠焼の陶片を活用し顔面付釣手形土器をモチーフにした子どもワークショップを開催しました。</div> <div>○空調設備改修工事 老朽化に伴う吸収式冷温水機、ポンプ及び配管、冷却塔の更新工事を実施しました。</div>				テ　　マ	内　　　　　　容	「気韻生動」の画人 池上秀畝生誕 150 年展 （3月2日～5月19日）	高遠に生まれ中央画壇において、伝統に立脚しながら写実を重んじた山水画、花鳥画に取り組み、被写体が持つエネルギーを描くことを追い求めた日本画家池上秀畝の生誕 150 年を記念した展覧会を開催しました。	若手アーティスト展 ー麓芸落合ー （8月24日～11月4日）	この地域で活動する若手作家6人が、それぞれ異なる手法・技法を以って各々の世界観を表現し、異なる文化が出合うことで生まれる空間を作り出す展覧会を開催しました。	収蔵作品秀作展 伊那に伝わる美の系譜 （3月8日～5月18日）	中村不折、池上秀畝をはじめとする郷土ゆかりの作家と木内克、福沢一郎などの原田コレクション作家、東京藝術大学との交流による作家など、伊那に伝わる美の流れを紹介する展覧会を開催しました。
テ　　マ	内　　　　　　容											
「気韻生動」の画人 池上秀畝生誕 150 年展 （3月2日～5月19日）	高遠に生まれ中央画壇において、伝統に立脚しながら写実を重んじた山水画、花鳥画に取り組み、被写体が持つエネルギーを描くことを追い求めた日本画家池上秀畝の生誕 150 年を記念した展覧会を開催しました。											
若手アーティスト展 ー麓芸落合ー （8月24日～11月4日）	この地域で活動する若手作家6人が、それぞれ異なる手法・技法を以って各々の世界観を表現し、異なる文化が出合うことで生まれる空間を作り出す展覧会を開催しました。											
収蔵作品秀作展 伊那に伝わる美の系譜 （3月8日～5月18日）	中村不折、池上秀畝をはじめとする郷土ゆかりの作家と木内克、福沢一郎などの原田コレクション作家、東京藝術大学との交流による作家など、伊那に伝わる美の流れを紹介する展覧会を開催しました。											
事業の課題及び方向性	<div>【課　題】入館者数が減少した状況を分析し、市民が美術館に何を求めるのか、ニーズを把握したうえで展覧会の企画をはじめ各種事業を検討することが必要です。</div> <div>【方向性】館内のアンケート調査の他、SNS等を活用し、市民ニーズの把握に努め、魅力ある企画展示、講座の開催などを通じて、市民が芸術文化に触れ、美術館に親しんでもらえる機会を積極的に提供します。</div>											
自己評価	C											

【参 考】

令和7年度 教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書
追加・廃止事業及び前年度自己評価から変更のあった事業にかかる評価理由

1 追加事業

該当なし

2 廃止事業

該当なし

3 前年度自己評価から変更のあった事業

No.1 5	不登校児童生徒支援ネットワーク	C→B
市費加配講師の配置を行った。		

No.2 0	学童クラブ	B→C
年々利用ニーズが高まっているが、児童の安心安全な居場所とするためには、安定した人材と環境整備が必要と考えるが、そこに至っていない状況にある。より一層の改善が必要と考える。		

No.3 2	図書館イベント	B→A
新規事業について実施できた。事業全体で昨年度を上回る参加者があり、参加者からも好評をいただいた。		

No.4 2	信州高遠美術館	B→C
<p>予定した事業をすべて実施できたものの、令和5年度10,000人を超えた入館者数が8,509人にとどまった。(令和5年度と比較すると、上半期はほぼ同数であるのに、下半期の入館者数は約6割減であった。)</p> <p>下半期は、空調設備改修工事が予定されていたことから、収蔵作品を紹介する展覧会が続くことになり、話題性に欠ける面があった。</p>		

伊那市教育委員会評価委員による意見

1 教育委員会評価委員による評価について

「妥当」である。(2名)

- 【意見】
- ・市民の目線から多岐にわたる諸事業を構築され、全般に着実に遂行されている印象である。中でも第1節1・3・4は小・中学校の12年間にわたる重要な時期に関わる事業として、市として大切にされていることが見てとれた。また、郡外から見た時には、上伊那全域の連携のもとキャリア教育の推進に早くから取り組んでいたことは特徴の1つであると思う。
 - ・教育委員会の取組については、施策の方向性が明確であり、計画的に事業が推進されている点を高く評価する。特に学校現場の負担軽減や児童生徒の学力向上に向けた取組は一定の成果がみられた。
- 【理由】
- ・事業が概ね計画通りに遂行されていると判断できる。

「概ね妥当」である。(1名)

- 【意見】
- ・食育、給食、施設の安全、子どもの安心安全と命に直結するところについては、引き続き適切な対応をお願いしたい。
 - ・図書館は、イベントや貸し出しもきちんと活発にできておりすばらしい。
- 【理由】
- ・評価が下がったところもあるが、B評価が多くあり良いと考える。

2 伊那市の教育行政及び事務事業について

(1) 積極的に取り組むべき事業

事業名	意見など
No.2 キャリア教育の推進	「郷土愛プロジェクト」を通じたキャリア教育の推進については、伊那市が中心的役割を担っていただいており、地域と子どもたちとのつながりや中学生と高校生との連携を引き続き推進していただきたいと思う。
No.3 幼保小中の連携	授業数の関係もあると思うが、保育園児が小学生と関係が持てる授業を増やすことで、子どもの不安を少なくしていくようにしてほしい。
No.4 読書活動の推進	2校勤務の職員を1校1名体制にし、掛け持ちを解消することで仕事量を減らし、子どもたちに向き合える時間を増やすようにしてほしい。
No.5 学校備品整備・情報教 No.19 少年補導委員会・少年補導センター	I C T教育の推進により、年々中学校等における子どもたちや先生方の授業の様子の変化をうかがうことができる。タブレット端末に限らずデジタルに係る教育は、家庭ももちろんだが、学校でもその充実が一層求められている。
No.7 特別支援教育	支援が必要な子どもが増加しているが、学級の中で支援員の先生に見守られながら教育を受けることが望ましいと思う。保育園の支援保育士による保育と同様になれば良いと考える。

No.7 特別支援教育 No.14 中間教室 No.15 不登校児童生徒支援ネットワーク	支援を要する子どもや不登校となる子どもの中で、高校卒業後に地元就職を希望する例は多いと思うので、中学校卒業後の状況についての共有により、将来に向けた支援体制づくりが必要であると感じている。
No.18 スクールカウンセラーの配置	不登校やいじめの対応などで、スクールカウンセラーが増えたことは喜ばしい。悩んでいる親にとっては、心の支えとなりありがたい。これからも大切にしてほしい。

(2) 社会情勢や市民ニーズなどに対応していない事業

事業名	理由・意見など
No.29 公民館共同事業	キッズ王国はもう何年も同じようなことを行っていると思う。工夫や違う考え方も必要であると考ええる。

(3) その他

事業名	理由・意見など
No.6 学力向上 No.20 学童クラブ	小・中学校の放課後学習支援員について、他の市町村では時期を限定して高校生にも募集がある。支援員数が充足していないようであれば、検討いただいてもよいと思う。
No.40 創造館	高校生が放課後の学習スペースとして利用させていただき、感謝申し上げます。いなっせ等についても今後ともお世話になります。 時宜に応じた企画展の開催はいつも興味を感じている。

3 その他

- ・学校の先生方や公民館・図書館の皆さんが頑張っていることは承知している。予算を確保し、子どもたちにとって、より良い体制となしてほしい。
- ・プールについて、設備の都合で使用できない学校が増えることが予想される。泳ぐという命を守ることが、教育に含まれないことはどうなのか。溺れる子がないよう、最低限の泳力を身につけられるような対応をしていただきたい。
- ・伊那北高校と伊那弥生ヶ丘高校の再編統合により、両校の蔵書を整理する中で、両校の保管書籍が重なったり、新校の収容力を上回ったりする書籍が見込まれる。今後、両校の蔵書の一部を預かっていただくことを相談させていただくことがあると思います。

令和7年度

伊那市教育委員会評価委員

伊那弥生ヶ丘高等学校長 佐々木 俊秀

中部PTA連合会会長 田中 陽一

伊那市民生児童委員協議会 阿部 美智子